

MBCテレビ 毎週水曜日10:28~10:35放送中!

国保で
HOT情報

かかりつけ薬局で健康を管理する —安心・安全な薬の服用を

● 薬局、薬剤師との上手なつき合い方



薬の飲み合わせ等について説明する(社)鹿児島県薬剤師会理事の下田健一先生(写真左)と和田由樹健康リポーター

知つておきたい薬の 飲み合わせと副作用

—患者さんがお薬をもらうとき、病院で処方箋を出してもらつてから、病院や診療所以外の薬局でお薬を受け取る割合が増えていて、その際に薬局で保険証の提示を求められたり、問診表を書くのはなぜでしょうか？

下田先生／処方箋には保険証の番号等が記載されていますが、その内容が異なる患者さんもいます。保険

請求できなかつたり、費用の負担割合が異なるケースがあるので確認しています。また問診表は、患者さんにより安全に、安心して薬を服用していただくために不可欠です。他の病気を患つていると使用できない薬もありますし、今服用している薬と一緒に食べたり飲んだりできない食品もあるからです。

—そうなんですね。どんな薬と薬の飲み合わせが悪いのでしょうか？
下田先生／喘息の患者さんでは、痛み止めを服用して喘息の発作が起こることもあります。また、コレステロールを下げる薬や血圧を下げる薬の中には、水虫を治す薬と一緒に服用すると、副作用を起こす可能性が高いものもあります。同じようなことが食品でも起こるんですよ。

—食品でも影響があるのですね。例えばどんな食品がありますか？
下田先生／納豆はワーフアリンと

昭和23年に制定された医療法が、一昨年の6月、薬事法とともに新たに改正されました。薬局は「医療提供施設」として位置づけられ、私たちが健康を管理する上で、なくてはならない存在になつてきています。国保でHOT情報では薬と飲食物の相互作用やお薬手帳の活用、かかりつけ薬局と薬剤師の役割等について、社団法人鹿児島県薬剤師会理事でつばさ薬局串木野の下田健一先生にお話を伺い、2月27日と3月5日の2週にわたりお伝えしました。



問診表を記入する和田健康リポーター。健康状態やお薬の使用状況をお知らせし、安心・安全な薬の服用を

自分の薬歴を管理する

—自分がどんなお薬を服用しているか、またどんな薬で副作用が起ころのかを知っている患者さんは

—自分がどんなお薬を服用しているか、またどんな薬で副作用が起ころのかを知っている患者さんは

少ないですよね。

下田先生／そこで役に立つのが「お薬手帳」と「かかりつけ薬局」です。

お薬手帳とは、患者さんが服用している薬の記録です。この手帳に服用している薬や、副作用を起こした薬を記入します。そうすることで副作用を未然に防いだり、医師や薬剤師に「同じ薬が重なっていないか」「飲み合わせに問題はないか」等の確認をしてもらえます。またきちんと薬を服用しているか、ご自身の確認にも役立ちますね。

——では、かかりつけ薬局とはどのようなものですか？

お薬手帳をお持ちですか？

お薬手帳をお持ちの方は
薬剤師にお見せください。

「お薬手帳」とは

あなたがいつ、どこで、どんなお薬を処方してもらったかを記録しておく手帳のことです。あなたのアレルギーや副作用の原因となつたお薬がどれであったかも記録されます。

「お薬手帳」の役割

- 病院や薬局でこの手帳を見せることで薬の重複や相互作用を確認することができます。
- アレルギー歴や副作用歴の記載により、同じ種類の薬剤での副作用を回避できます。
- 入院時・通院時などに利用することにより、病院・診療所とまちの薬局とがお薬手帳を介して連携し、より安全にお薬を使用できるようになります。
- 外出時や災害時など、この手帳を持参することでいつでも服用している薬の内容がわかり、医療機関による救急救助処置が円滑に行きやすくなります。

「お薬手帳」はかかりつけ薬局の薬剤師に相談すれば手に入れることができます。
使い方がよくわからない時にも遠慮なく薬剤師に相談しましょう。

(社)鹿児島県薬剤師会

お薬手帳の活用を促すポスター。薬剤師は患者さんが服用している薬や、副作用を起こしたことがある薬をお薬手帳で確認できる



「お薬手帳」の使い方

- 病院や薬局へ行った時には必ず医師・歯科医師・薬剤師に見せましょう。
- 病院に入院するときは、必ず今服用しているお薬と一緒に持て行きましょう。
- 薬局・薬店でお薬を買った時にもその名前を記録しておきましょう。
- アレルギーや副作用が起こった場合はその旨を記録してもらいましょう。
- 通院時・外出時には必ず持ち歩きましょう。
- お薬手帳は1人1冊にまとめましょう。

多様化する薬剤師の役割

——最後に、高齢化社会が進むとともに、介護をはじめとする在宅医療

下田先生／患者さんの健康状態とお薬の使用状況を把握している薬局のことです。薬局では患者さんごとに問診表でお尋ねした体質や合併症、お薬に関する記録として「薬歴簿」というものを作っています。お薬の重複や飲み合わせを確認するためにも、かかりつけ薬局を決めてご自分の薬歴を管理することはとても有効な方法です。また、大衆薬や健康食品も同じ薬局で買うようになります。かかりつけの薬剤師は、

患者さんの主治医やケアマネージャーとともに連携しながら自宅を訪問し、お薬の調整や管理を行うことができ。もし在宅医療をご希望される方はお近くの薬局やかかりつけ薬局の薬剤師にお気軽にご相談ください。

お薬の服用は専門的知識が必要です。お薬手帳を活用したり、かかりつけ薬局をもつことで自分の服用するお薬を薬剤師に管理してもらえることが分かりました。

高齢化社会が進む昨今、薬剤師に求められる役割も多様化しています。安心・安全に薬を服用するためにも、かかりつけ薬局や薬剤師とながりを持ちましょう。そして分からぬことや不安なことがあれば、気軽に相談できるコミュニケーションづくりも大切になつてくるのではないかでしょうか。



抗ヒトTNFαモノクローナル抗体製剤
レミケード®点滴静注用100
REMICADE® for I.V. Infusion100
イソフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤
【生物由来製品】
【微生物製造】
【医療用医薬品】
【医師等の専門家による使用】
【注意】医師等の専門家による使用

■ 効能・効果・用法・用量・警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10

2008年2月作成